

令和6年度
運営に関する計画
中間評価

大阪市立大正西中学校
令和6年11月

大阪市立大正西中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校教育目標「人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と自ら学ぶ意欲を育て、「生きる力」を育む教育活動を推進する」ことを目指して、生徒とのコミュニケーションを大切にし、常に生徒一人ひとりをしっかりと見つめた「いじめ」のない学校づくり、保護者の理解・協力を培いながらの規律ある生活指導、基礎基本の定着を重視した学習指導に力点を置いて取り組んだ。その成果は、授業2分前入室や授業離脱生徒0の実現、服装・頭髪違反者数や遅刻数や器物破損数の大幅な減少等、様々な面で現れている。しかし、学習面では、授業を大切にする気持ちは高まっているが、基礎・基本の定着には大きな課題が残る。

また、家庭の状況や友人関係など要因は様々であるが、不登校の克服も本校の大きな課題である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和3年度より減少させる。
- 令和7年度の校内調査において、令和3年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度（73%）より向上させる。
- 令和7年度の校内調査において、「将来のこと（進路）や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度（85%）より向上させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を68%以上にする。
- 令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。
- 令和7年度の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度（93%）より向上させる。
- 食育を推進し、令和7年度の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を令和3年度（9%）より減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を活用した授業を週1回実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を40%以上にする。
- ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。
- 令和7年度の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度（94%）より向上させる。
- 令和7年度の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度（55%）より向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95.4%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(83.7%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「将来のこと（進路）や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(86.5%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(88.1%)より向上させる。
- 定期的（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を52.3%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を92.7%より向上させる。
- 食育を推進し、年度末の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を7%より減少させる。
- 調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲を高めるため、昼休みの図書館開館を原則5回とし、昼休みの図書室利用者数を平均13名以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を40%以上にする。

学校園の年度目標

- ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。
- 年度末の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.1%より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を53.3%より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p><u>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標</u></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を95.4%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p><u>学校の年度目標</u></p> <p>○年度末の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(83.7%)より向上させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、「将来のこと(進路)や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(86.5%)より向上させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(88.1%)より向上させる。</p> <p>○定期的(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営)</p> <p>・安全・安心な教育環境の整備を行い開かれた学校づくりを推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・ホームページや学校だより・ミマモルメを活用し、積極的に情報発信を行う。</p>	B
<p>取組内容2 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営)</p> <p>・津波や防災の訓練を通して、安全な避難と防災の教育・指導に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年2回以上の避難訓練の実施。</p> <p>・年度末の校内調査において、「事件や事故、災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を80%より向上させる。</p>	B
<p>取組内容3 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営)</p> <p>・学校行事を通じ、人とのつながりを感じられる、いじめを生まない学校づくりを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(88%)より向上させる。</p>	C

<p>取組内容4 【基本的な方向2 豊かな心の育成】（道徳心・社会性の育成①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や総合的な学習の時間、道徳の授業を通じて、いじめや仲間はずれを許さない、一人ひとりを大切にする人権教育を実施する。学年や学級での取り組みを充実させ、体育大会や文化祭等の学校行事の中で、その成果を発揮し、充足感を得られる生徒集団の育成を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見されたいじめ事案を職員全体に共有し、解消した割合を100%にする。人権教育実践や、学校・学年での取り組みに向けて、外部人材の活用を視野に入れ、それによる教育活動を1回以上実施する。 	
<p>取組内容5 【基本的な方向2 豊かな心の育成】（道徳教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の考え方を様々な角度から深め、道徳心を育み、自らの生き方について考えさせる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22の内容項目をもれなく満たす授業を年間35時間以上おこなう。 	
<p>取組内容6 【基本的な方向2 豊かな心の育成】（芸術鑑賞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己肯定感の向上に向けた教育活動の充実を図るべく、全校生徒に対し、芸術鑑賞の機会を設ける。また、鑑賞内容は、毎年分野を変更し、3年間に渡り、新しい分野の芸術に触れることができるようにする。 ・今年度は「古典的芸能」分野の芸術鑑賞をすることで、さまざまな国・時代の芸術に触れ、古典芸能の世界の魅力を知る機会とする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的なパフォーマンスから、古典芸能の魅力を生徒に感じ取らせ、事後アンケートで行事の満足度・充実度を82%以上にする。 	
<p>取組内容7 【基本的な方向1 安全安心な教育環境の実現】（道徳心・社会性の育成②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の定着を図り、規律ある集団の育成に努める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通安全指導と交通ルールを厳守し、安全なルートでの登下校と交通事故件数「0」を目指す。 ・校内調査における「学校の決められた服装やルールを守っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を94%以上にする。 	B
<p>取組内容8 【基本的な方向1 安全安心な教育環境の実現】（道徳心・社会性の育成②）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の相談活動を中心とし、生徒個々の生活背景や実態を正しく把握し、生徒理解・課題解決に向け取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回以上の生徒実態調査と外部講師による生活指導講話を実施する。 ・保護者・地域・関係諸機関との連携を密にするとともに、教職員間でその情報を共有し、組織的に対応できる体制を構築する。 ・年度末の校内調査において、長欠生徒の割合を全体の18%以下にする。 	B
<p>取組内容9 【基本的な方向2 豊かな心の育成】（進路）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に応じ、キャリア教育を推進し、道徳心、社会性の育成を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの指針に従い、年1回のキャリア教育を実施する。 	
<p>取組内容10 【基本的な方向2 豊かな心の育成】（特別支援教育の充実）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの知識や生徒の特性などを教員に定着させる。 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1回以上障がいの知識や特性などについての特別支援教育研修会を実施する。 ・生徒の特性や発達段階に応じ、各学年会や職員会議で情報共有を行う。 ・支援教育にかかわる研修会に積極的に参加できるよう、職員会議等や skip を活用し、連絡・案内する。 	
<p>取組内容 11 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(特別支援教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの特性に応じた授業や日常生活に必要な支援を行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性や発達に応じ、入り込み指導や抽出指導を計画、実施する。 ・個別の教育支援計画・指導計画を作成し、活用する。 ・学年会や職員会議、または職員朝礼や学年打ち合わせで情報交換をする。 ・生徒の成長に応じた支援の仕方や授業の形式を本人・保護者・特別支援教育担当者と相談し、適宜変更、実施する。 	B
<p>取組内容 12 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(特別支援教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子を普段から観察し、電話連絡や連絡ファイルを通して、保護者と情報を共有する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭からの連絡を受け、情報を共有する。 ・連絡ファイルや入り込みの記録用紙を活用し、学校からの情報提供と提出物の支援を行う。 ・授業内での小テストや家庭学習用の課題プリントによる学力定着をはかる。 	B
<p>取組内容 13 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(音楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽での学びを通し、感性を育み、想像力を膨らませ、豊かな心を養う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間に4つ以上の音楽のジャンルの音楽に取り組む。器楽を年2回取り組む。 	
<p>取組内容 14 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(美術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術史の作品鑑賞を定期的に行い、多種多様な思想や表現方法があることを学ぶ。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で美術史等の冊子と制作等の表現活動を分割した授業展開を各学期の半分以上行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にホームページ(平日1回以上の更新)や学校だより(月1回)、緊急下校時の連絡を保護者メールで配信し情報発信を行っている。ホームページのアクセス数は4月～9月末時点で昨年度の71%に及んでいる。今後はさらに発展的にミマモルメを活用していく。 <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に火災想定避難訓練を行った。11月に地震・津波の避難訓練を行う。 ・第1回の校内調査において、「事件や事故・災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目で肯定的に答える生徒の割合は82.9%となり、目標を上回っている。 <p>取組内容 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合は84.1%となり、目標を下回っている。 <p>取組内容 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見されたいじめ事象を職員全体に共有し、100%対応ができている。また、当該生徒についても丁寧に対応している。いじめの解消に向けて取り組み、現在は経過観察と継続的な指導を行っている。 ・3年生は2学期に総合の取り組みで活用、全学年において2学期と3学期の間に活用する予定である。 	

取組内容 5

- ・目標達成の指標である22の内容項目および年間35時間以上の授業実施について、計画通りすすめることができている。また、大阪府中学校道徳教育研究発表会「大阪市大会」に先がけて、本校においても10月10日にプレ公開授業を実施した。

取組内容 6

- ・事後アンケートの結果、「今日の芸術鑑賞の満足度はどうですか。」という質問に対する回答が、5段階評価で「満足度5」と回答した生徒の割合は89.375%であった。「満足度4」まで含めると、97.5%となり、指標の数値82%を上回る結果となった。
一方で、「三味線・三線に興味を持ってましたか。」という質問に対する回答は、5段階評価で「5」と答えた生徒の割合は55%、「4」まで含めても76.875%であった。
この結果から、当初の指標であった満足度82%は達成できたものの、生徒の興味をかき立てるという点に関しては改善点が見受けられた。

取組内容 7

- ・登下校中の交通事故件数は現在「0」である。引き続き、全校集会や学年集会等で注意喚起を呼びかけていく。
- ・校内調査における「学校の決められた服装やルールを守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は98.8%であった。

取組内容 8

- ・現在生徒実態調査を1回行った。また、夏休み前の生活指導講話は、大正警察署の方に交通安全について講話をしていただいた。冬季休業前生活指導講話では、薬物乱用について講話をしていただく予定である。
- ・継続して教職員の共通理解を図るとともに、情報共有を密にし、学校内外での問題行動に対して迅速な対応が行えるよう、生徒の様子や変化の把握に努め、保護者や地域との協力・支援体制の構築を図る。

取組内容 9

- ・1年生は3学期に職業適性検査を、2年生は2学期に職業体験学習を実施予定である。
3年生は1学期に進路講話を実施した。

取組内容 10

- ・特別支援教育研修会は、5月16日に生活指導研修会と同日に実施した。教員間で、支援が必要な生徒の情報共有を行った。
- ・学年集会で、生徒の特性や対応の仕方などを丁寧に話した。

取組内容 11

- ・生徒の特性や発達に応じて、授業の形式や支援の方法について学級担任や保護者とともに計画し実施している。
- ・個別の教育支援計画は作成後、保護者に確認をしてもらい、随時更新している。指導計画は生徒一人ひとりの課題に応じた目標を設定し、評価と次学期の目標を学期末懇談で保護者と相談するとともに、学年で共有している。
- ・学年会や職員会議で情報共有を行い、学校全体での把握につとめている。

取組内容 12

- ・日々の様子を連絡ノートや電話、家庭訪問などを通して、家庭と情報共有ができている。家庭と学校だけでなく、必要に応じて関係諸機関とも連携をとれている。
- ・進路を見据えた支援を行うために教科担当と連携して、課題プリントや放課後学習会などを通して学力定着をはかっている。
- ・来年度入学予定の児童が在籍する小学校と連携を取りながら、支援方法を共有するとともに、保護者と教育相談を行いながら必要な支援方法や家庭での様子について話を聞くことができた。

<p>取組内容 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定どおり進めている。器楽がまだ一回しか取り組むことができていないため、年度内には2回目を実施したい。 <p>取組内容 14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定通り実技と座学をバランスよく組み込んでいる。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>取組内容 14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標 (施策目標) を達成するための年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を52.3%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を92.7%より向上させる。</p> <p>○食育を推進し、年度末の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を7%より減少させる。</p> <p>○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲を高めるため、昼休みの図書館開館を原則5回とし、昼休みの図書室利用者数を平均13名以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (学力向上)</p> <p>・教材や教具を工夫、活用して、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度末の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で、生徒の肯定的回答の割合を92.7%以上にする。</p>	B
<p>取組内容2 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 (健康・体力の保持促進)</p> <p>・生徒や保護者における「食」の重要性に対する意識の向上をめざし、朝食アンケート (食喫食アンケート) を実施する。その結果、「何も口にしていない」の項目に該当する生徒の割合を減少させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・朝食アンケートを前期1回、後期1回のそれぞれ1週間 (5日間) 実施。1週間 (5日間) において「何も口にしていない」に該当する生徒の割合を全校生徒の6%以下に減少させる。</p>	B
<p>取組内容3 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 (健康・体力の保持促進)</p> <p>・Covid-19 (新型コロナウイルス) 感染症等に対応できるよう、消毒液をはじめとした衛生用品の備蓄を充実させる。また、心肺蘇生やエピペンの使用などの緊急対応ができるよう研修の機会を持つ。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応についての教員研修を年2回行う。 	
<p>取組内容4 【基本的な方向 誰一人取り残さない学力の向上】(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章やグラフ、図表などの情報から正確に読みとる総合的な読解力を身につけ、論理的で説得力のある文章を書く力を養う。適宜、効果的に ICT 機器を用いる。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に2回以上、文章や情報を読み取り、要約する授業を行う。 ・学期に1回、文章を書き、グループで発表する授業を行う。 ・年度内に1回、自分が書いた文章を推敲する授業を行う。 ・学期に1回以上、一人一台端末を用いた授業を行う。 	
<p>取組内容5 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な言語文化に親しみ、言葉の特徴やきまり・漢字などについて理解し、使う能力を養う。適宜、効果的に ICT 機器を用いる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回、漢字の課題を課し、漢字小テストを行う。 ・文法の確認テストを各単元が終了次第、1回実施する。 	
<p>取組内容6 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発や指導方法を工夫し、知識の定着を図る。 ・多様な資料から自ら考え、意見を書く力を身に付けさせる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2回以上、自主プリントや副教材を活用して知識を定着させる。 ・教科書や資料集等の統計資料を積極的に使用し、テスト時に20点分以上の思考・判断・表現の問題を出題する。 	
<p>取組内容7 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(数学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの状況に応じた、学力向上への取り組み。 ・補助教材を活用し、計算問題や文章問題・発展的な問題を解かせる。 ・基礎がまだ十分についていない生徒に対し、基礎学力を定着させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、ノート、プリント、問題集等を提出させ、生徒の理解度を確認する。 ・1週間に1回以上プリントもしくは問題集に取り組む機会をつくる。 ・定期テスト前を中心に、計画的な補助学習を実施する。 	
<p>取組内容8 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科室を整備、器具の補充をし、実験・観察の回数を全学年合計50種類以上行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科室の整備・補充を行う。 ・年間50種類以上の実験・観察を行う。 	
<p>取組内容9 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(美術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、広げる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のアイデアを考えたり完成したりするタイミングに意見交換の時間を設け、生徒同士で意見交換を行う。また、美術史の作品を鑑賞する際対話型鑑賞を用いて進行する。 	

<p>取組内容 10 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（保健体育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの状況を把握しながら学校園における体力向上に向けた取組の推進。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の同一母集団において昨年度と比較し、2・3年生において体力合計点5ポイント以上向上させる。 	B
<p>取組内容 11 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（技家）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動・理解教育の充実を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実現をめざす。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術分野において①全学年でプリントを両面印刷し、主体的にテスト勉強で生かされるようにする。②授業ではペアワークやグループ活動、調べ学習などの課題を設定し、その内容に応じ3～4段階で評価する。③実習を含む授業において制作物の仕上げ（完成）はオリジナルの作業や手を加える。2学期から年度末にかけてアンケートを実施して①②③の評価で肯定的な評価を50%以上得る。 ・家庭分野では、全学年で教科書に準拠した授業用プリントを自作し、その中に、内容を振り返り各自の習得内容をまとめる「OUTPUT」記入欄を授業プリント最後に設ける。全授業の60パーセントで「OUTPUT」記入欄があるプリントを製作する。また、授業プリントを提出し、その内容に応じ、3段階で評価する。 	B
<p>取組内容 12 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（英語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の強化のため、音読に積極的に取り組む姿勢を養う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C-NET を活用し学期に2度以上音声や会話の個人ごとのテストを実施する。 	C
<p>取組内容 13 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（英語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の強化のため、学んだことを家で復習し、積極的に自主学習する力を養う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に3回以上小テストを行う。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の校内調査では93%だった。各教科担当で取り組みを進めている。 <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/1（月）～7/5（金）の5日間アンケートを実施した。 <p>指標である、朝食アンケートの実施回数を達成することができ、朝食を口にしていない生徒は5%だった。「1週間（5日間）において『何も口にしていない』に該当する生徒の割合を全校生徒の6%以下に減少させる」という目標を達成することができた。後期で行う朝食アンケートでも結果を維持できるよう、引き続き保健委員会を中心に働きかけを行う。</p> <p>取組内容 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期にエビペン講習会と普通救命講習会を実施することができた。 <p>消毒液をはじめとした衛生用品の備蓄に関して、点検・補充をしている。また、冬季にはクラスに1台ずつ加湿器を設置し、今後も感染症対策に努めていく。</p>	

取組内容 4

- ・要約の授業については、学期に 2 回以上を超えるペースで取り組んでおり、一教材につき、一回は要約に取り組むことができている。2 学期後半には、総合的読解力育成カリキュラムに基づいた授業を計画しており、今後もさらに総合的な読解力を身につけることのできる取り組みをすすめていきたい。

取組内容 5

- ・計画通りすすめることができている。

取組内容 6

- ・1 年生では授業内で復習に使い、知識の定着を図っている。2 年生においても副教材の使用や重要語句を漢字で覚えるためにプリント学習を行っている。3 年生においても授業内でプリント課題を用い、知識の定着を図っている。
- ・思考・判断・表現力の問題は副教材や教科書の内容を取り入れ、毎回の定期テストで 20 点以上の問題を出题している。

取組内容 7

- ・提出物については、積極的に取り組んで、提出する生徒が多い。
- ・副教材や課題プリント活用して、基礎的な問題の演習量を増やしている。
- ・定期テスト前や長期休暇中の学習会で、補充学習や個別のフォローを行っている。

取組内容 8

- ・理科室の整備を随時行っている。
 演示実験も含めて実験・観察を 27 種類行った。
 夏場の理科室は、使用に制限がかかる。
 今後達成にむけて実施していく。

取組内容 9

- ・お互いの作品を鑑賞しあえるよう ICT 機器を活用しながら取り組んでいる。
 美術史の内容を扱うときに生徒に問いかけながら鑑賞を促している。

取組内容 10

- ・現在調査中のため、最終評価にて報告。

取組内容 11

- ・技術分野
 - ①全学年で授業プリントを両面印刷しており、テスト勉強で生かせるようにした。昨年度よりも積極的に学習する態度が見られたうえに、プリントのチェックを受けにくる生徒が増加した。
 - ②ペアワークやグループ活動の頻度を多めにした。その結果、効率よく活動に参画し、コミュニケーション力の向上にもつながった。
 - ③これから制作物の加工作業を行う予定である。プリントに生徒自身が考えて設計したものを描く活動を行った。思考と創意工夫が見られた。
- ・家庭分野
 全学年で教科書に準拠した授業用プリントを自作し、その中に、内容を振り返り各自の習得内容をまとめる「OUTPUT」記入欄を授業プリント最後に設け、記入する時間を設定した。全授業の 60 パーセントで「OUTPUT」記入欄があるプリントを作成できており、昨年度よりも積極的に取り組むことができている。また、授業プリントを提出し、その内容に応じ、3 段階で評価を行った。
 被服実習では、生徒自身がデザインを考えた BOOK カバーを製作する活動を行った。

<p>取組内容 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読に積極的に取り組む活動は行えたが、C-NET との会話テストを行えていない。2 学期から 3 学期にかけ、C-NET との会話テストを計画的に実施する。 <p>取組内容 13</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習をさせるために、課題プリントを配布した。また、各学年小テストも 3 回以上実施することができている。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 7</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 9</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 10</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 11</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 12</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>取組内容 13</p> <ul style="list-style-type: none"> 	

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標 (施策目標) を達成するための年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を40%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。 ○年度末の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.1%より向上させる。 ○年度末の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を53.3%より向上させる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容1 【基本的な方向6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 (学力向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を多くの場面で活用し、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が年1回以上の研究授業と年2回以上の授業見学を実施する。 ・授業はいつでも見学できることとし、ICT機器活用方法の相互研鑽を行う。 	C
<p>取組内容2 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 (学力向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の活用を促進し、読書好きな生徒を増やして、言語力の向上に繋げる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の開館を原則週に5回以上行う。 ・学級文庫を全教室に常置する。 ・昼休みの図書室利用者数を平均13名以上にする。 	B
<p>取組内容3 【基本的な方向6 教育DX の推進】 (進路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の進路を見つけられるように情報の探し方を学習し、ICT機器を活用した進路学習・活動を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、職業や進学先について、ICT機器を活用した調べ学習を行い、自分の進路について考えを深める取り組みを1回行う。 	B

<p>取組内容 4 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】(進路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報を収集し、生徒・保護者に適切な情報を提供する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報を周知するとともに進路への意識を高めるため、進路説明会を年 2 回行う。 ・ 2 回のうち 1 回は生徒も参加させることで、生徒・保護者がともに当事者としての意識を持ち、協力して進路について考えていくよう促す。 	B
<p>取組内容 5 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T 機器を使用し、デジタル教科書や視聴覚コンテンツを活用して、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 5 % 以上の授業で、デジタルコンテンツの活用機会を設ける。 	
<p>取組内容 6 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒用タブレットを活用して、各学年、年 1 回調べ学習を行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年、年に 1 回、I C T 機器 (タブレット) を用いた調べ学習を行う。 	
<p>取組内容 7 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(美術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が I C T 機器を活用した授業を行い、より広い視野で感性を向上させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学期の半分程度、I C T 機器を活用した授業を行う。 	
<p>取組内容 8 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(技家)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人 1 台端末の環境を生かし、最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を実施する。さらに地域の文化に触れるような学習を取り入れる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術分野において、材料の加工もしくはデジタル (PC)、他、技術の授業で制作した作品を文化祭で展示発表する。さらに、生徒が思考・工夫したことを表現する課題や P C を利用した調べ学習などの課題を実施する。 ・ 家庭分野では、一人 1 台端末を利用し、授業での調べ学習を行う。また、調べた内容を授業内で発表する機会を設け、生徒の思考・工夫したことを表現できる場を設定する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業・授業見学については、未実施の教員が多いため、実施を促す。 <p>取組内容 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級文庫を全教室に常置できた。 ・ 図書館は、夏休み中に 8 日間、自習室として開館した。 ・ 昼休みの図書室利用者数は平均 1 2 で目標に届かなかった。 ・ 図書室の利用について、読書以外の利用者が見られたため、生活指導部と連携して改善した。使い方に関して再確認したうえで運用している。 <p>取組内容 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年生は 3 学期に職業調べを、2 年生は 3 学期に進学先調べを実施予定である。 <p>取組内容 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年生には進路通信を毎月発行し、進路説明会も 3 回実施した。 	

取組内容 5

- ・各学年のすべての授業で ICT 機器を使った授業を行っている。単元によっては NHK for School などの視聴覚コンテンツを使用し、生徒の意欲を高めている。

取組内容 6

- ・各学年調べ学習を実施した。実施した結果を文化祭で展示予定。
テーマ：1 年生動物調べ、2 年生身体の不思議、3 年生宇宙の不思議

取組内容 7

- ・いつでも調べ学習ができる環境にしている。アイデアスケッチの案をしらべたり、美術史について調べたりできている。

取組内容 8

- ・技術分野
ペアワーク・グループ活動・調べ学習では積極的にタブレットを利用した。思考・創意工夫は生徒同士のコミュニケーションからさまざまな考えが浮かび、課題の問題点に着目して解決する力が備わった。
- ・家庭分野
一人1 台端末を利用し、授業での調べ学習・グループ活動を行い、生徒同士でコミュニケーションをとり、積極的に意見交換を行うことができた。また、授業内で発表する機会を設け、生徒同士で思考・工夫したことを表現できた。

次年度への改善点

取組内容 1

- ・

取組内容 2

- ・

取組内容 3

- ・

取組内容 4

- ・

取組内容 5

- ・

取組内容 6

- ・

取組内容 7

- ・

取組内容 8